

房総 だより

(農)房総食料センター

千葉県山武郡横芝光町上原 368-1

<http://www.boso.or.jp/>

☆産地情報をお知らせします。

発行：2020年1月31日

産地情報

曇天続き 野菜への影響

1月はカラッと晴れた日が少なく、曇りや雨が続き、気温は平年よりも高めでした。そのため多くの野菜で生育に影響が出てきています。

旭市の松浦晴夫さんは11月から春まで長く収穫するミニトマトを栽培しています。ハウスに入ると丸っこい黄色と黒の蜂が飛んできて出迎えてくれました。ミニトマトの受粉作業をしてくれるマルハナバチです。「じっとして、攻撃しなければ刺されないから。」と松浦さん。早速、ミニトマトの樹を見せてもらうと「花が咲いて受粉しても、実がついていないところがあって、収穫量が激減。大きさも小粒が多くなってしまっ。こんな年は今までないよね。」と言います。本来ならついているはずの実が少なく、枝だけの房があり、この先も数が増えないことを示しています。実に行ってほしい栄養が成長に使われるようで樹は太く育っています。「ミニトマトも生きていくために自分で調節するんだよ。極端なときは実から樹に栄養が戻ることもあるらしい。」曇天が続くと細かな根が育たず、肥料の微量要素を吸うことができないそうで、いいことなしです。光合成細菌を使った液体肥料などを使って、環境を整えて対策していますが、2月は晴天が戻ってくることを祈ります。マルハナバチも活躍の時を待っているようでした。(B)



(左) 実のつかなかった枝



(右) 収穫中の房も小粒が目立ちます